講演会型＋在宅取組型（小学校）

学 校 名 等	下呂市立馬瀬小学校
実 施 日 時	通年
会　　場	各家庭・学校
参 加 人 数	全児童５４名+全保護者
学習課題（分野）	食育
運営者の願い	今年度の活動方針：「研修・奉仕・交流　健全な育成のために」に基づき、家庭教育委員会の活動を充実させる。親子（家族）でコミュニケーションを図りながら、食に対する関心を高め自立を促す。

学　習　の　内　容

＜年間4回シリーズの食育＞

◇**第1回 「おにぎりの日」**（5月19日）

早起きをし、親子のコミュニケーションを楽しみながらおにぎり作りに挑戦する。

◇**第2回 「夏休み親子クッキング～旬の野菜を使った料理を親子で作ろう～」**（夏休み中）

地域がら様々な夏野菜を自家栽培している家庭も多い。「旬の野菜」というキーワードを取り入れることで、畑で採ってきた野菜で料理することもでき、家族間の会話も弾んだ。

＊第1回と第2回の作品展示を体育館にて実施

「子どもの感想　＋　親からの一言　＋　料理（中）の写真など」を盛り込んで1枚にしたものを展示。料理そのものより、「子ども達の意欲や笑顔」と「親からの応援エール」に注目。

第１回・第２回の感想より

・1年の時はペッタンコ、2年はま～るく、3年には三角おにぎりが。成長を感じた瞬間だった。
・やる気で根気よくできた。包丁使いもとても上手になった。また、手伝ってほしい。玉ねぎで苦戦。
・慎重に包丁を使って、きゅうり・ハムの千切りをし、上手だった。マカロニを茹でる時にも、お湯がはねないように気を付けていた。今度は、炒めることに挑戦。兄弟で仲良くなっていた。

◇**第3回 「講演会（下呂市の栄養士・保育士）～育ち盛りの食～」**

・育ち盛りを迎える子どもたちには、栄養のある食材をちゃんと料理し、しっかり噛んで食べさせてほしい。（栄養ドリンク等はあくまでも補助的に）

◇**第4回 「講演会 （「弁当の日」を提案された竹下和男氏より）」**

・子どものお弁当作りを始めた目的は、人の喜びが自分の喜びになることを体験してほしいから。人に共感し、大切にできる子に育てるには、人のためになる体験させることが重要です。
・「お前は勉強していればよい。」と言い続けると、自分のことしか考えられない人になってしまう。

＜１年間の取組を通しての保護者の感想・変化＞

・夏休みには、包丁の使い方や作る順番などを教えながら、ゆっくりと会話をすることができた。できないと決めつけるのではなく、やらせてみることの大切さを感じた。
・おにぎり作りや親子クッキングでは、思ったより子どもの方が積極的でびっくりだった。また親子で挑戦したいと思った。
・弟の分まで作っていた。兄弟仲良くやっていてうれしかった。

＜成果と課題＞

・年間を通して、食育を中心とした活動ができた。また、夏休み親子クッキングは、時間的に余裕がある中で取り組むことができ、親子の交流もじっくりできてよかったと思う。
・課題としては、来年度は、「お弁当の日」の前段階で、おにぎり作りや1品おかず作りなど、各学年で段階を踏んだ取組を考える必要がある。

講演と実習を組み合わせて４回シリーズで実施し、年間を通じてステップアップしている。栄養や弁当作りの目的等も学べるように構成している。

第２回は「旬の」（地域がら、野菜を自家栽培をする家がほとんど）という言葉を用いることで、自分の家の畑の食材を使った食事作り（自立の一歩）に繋がることも考え、家族間の会話も弾むなど、相乗効果もあった。

作品展示会準備（体育館にて）

「作品展示」の保護者コメント欄には、感謝と子ども達の頑張りに対するエールが書かれていた。自分の子どものちょっとした進歩に気付く親の姿が素晴らしい。